

ぼくたち わたしたちが
あはれしくらせる いえ
こどもたちの ねがい

発行：社会福祉法人 中央有鄰学院 発行日：平成24年8月
ゆうりん ほだか ふれあいセンターおおだか きょうわ(9月開所)
名古屋市緑区大高町洞之腰20-1 TEL 052-621-2441 FAX 052-622-5509

社会福祉法人中央有鄰学院 広報誌

ゆうりんだより

2012年夏号



子ども・家族の声に耳を傾けたい

統括施設長 二村 繁美

「ゆうりん」では、子どもたちを管理する施設形態(大舎制)から子どもたちが生活できる形態に変えて3年目に入りました。

この夏、進路選択に悩む高校3年生、部活動やクラスの同級生との付き合いに悩む高校生の話を聞きました。いずれの子どもたちもが話の中でどうしても自分の過去の苦しかったことに触れていきま

す。

「ほだか」では、お母さん、お父さん方の悩みを聞きました。いずれも何とか早く家庭を再建させて子どもを引き取りたいという焦りです。若いお父さんお母さんが、おそらく仕事を始めた時の苦労と同じように家庭での子育ての苦労が大きいのしかかり心が折れています。

各家庭に社会の様々な子育て支援を繋ぎながら、家庭の機能を高め、手元で育てていってほしいと願います。

子どもが語れるようになった体験を聞いてみると、進路の時期を前にして、こんなに話が整理できている、こんなに語れるようになった、よくぞこれほど壮絶な体験をしながらその日その日を生き抜いてきてくれたと感じます。

今、未来を見つめて進路を悩んでいる姿の立派なことと、改めて同じ人間として彼らのしなやかな、逞しい姿勢を持つ一面に感動を覚えます。

生活が落ち着いた中で中学三年生は、「勉強したい」という子が出てきています。施設生活での落ち着いた大人との関係があつてこそ、子どもは、自分のことに前向きになれるのだと実感していま

自立援助ホーム「きょうわ」を9月より開設いたします。施設で育った子どもたちが、社会へたった一人の力で自立するにはハードルが高すぎます。また、在宅にて子どもたちは、中学生卒、高校中退において、社会不適應をおこしています。ここでの目標は、生活を立て直すことを第一に。第二に就職への道を探ることです。一緒に考えていくことが大切と思っています。

今後も皆様とご一緒に子ども・家族の皆様「声」に耳を傾けていける中央有鄰学院でありたいと改めて想った夏でした。

中央有鄰学院 平成24年度の課題

理事長 植田 望



1、厚生労働省の「社会的養護の課題と将来像」を受けて

中央有鄰学院では、乳児院「ほだか」、児童養護施設「ゆうりん」、ふれあいセンターおおか、の複合施設が整備され2年半が経過しました。ほだか・ゆうりんは、家庭的環境を重視した小規模ケアホームとして建物建てられ、子どもたちが生活する住環境は、全国的にも厚生労働省が推進している社会的養護（より家庭的な養護）の在り方を先取りした施設として社会的にも評価を受けています。

2011年7月厚生労働省は、「社会的養護の課題と将来像への取り組み」を公表しました。社会的養護の基本的理念として、「子どもの最善の利益のため」と「社会全体で子どもを育む」とし、家庭的養護の推進、施設の小規模化、施設機能の地域分散、自立支援の充実、子どもの権利擁護、里親制度の拡充等の方針を打ち出しました。

それに伴い戦後61年を経て、ようやくやく最低基準の改正（子どもの居住面積の拡充、職員配置の見直し等）や心理職等の人員配置の増員等を進めようとしています。

厚生労働省が乳児院や児童養護施設での小規模ケアホームに対する職員配置を平成23年度より、一施設当たり6ホーム、6人の職員加配ま



で認めています。

ゆうりんは6ホーム、ほだかは4ホームの小規模ケアホームの形態で運営されていますから、10人の職員加配が認められるはずですが。

しかし、名古屋市は予算上の理由で、平成24年度も4人しか加配されていません。小規模ホームできめ細やかな家庭的養護を行うためには、それぞれの小舎に最低3〜4名の職員が配置されることが必要です。名古屋市当局へは、引き続き職員加配の要求をしていきます。

2、組織の確立と人材育成

今まで、児童養護施設だけの一人法人一施設でしたが、複合施設に



ソフトボール大会優勝しました

なったため、職員も倍増（45名）し、組織の確立と人材育成が急務になっていきます。

ケアワーカー（保育士、指導員等）、看護師、心理職、栄養士等専門職集団が、それぞれの役割を自覚し、子どもたちの養育にあたりると同時に、合わせて施設を運営していく組織が必要ですが、社会的養護への施設の役割が変化しており、その役割・機能の変化にハード・ソフト面での対応が遅れています。

3、自立援助ホーム「きょうわ」の事業開始

平成24年9月大府市共和に自立援助ホーム「きょうわ」がオープン



ンします。

自立援助ホームは、さまざまな事情により家庭で生活することができない青少年が、就労による生活にて社会的な自立を目指す小規模ホームです。定員は6名で、正規の職員2名と非常勤1名の3名の職員が子どもたちの生活の援助にあたります。

対象者は児童養護施設などを退所後、就労自立を目指す児童や家庭で生活できず、中学卒業後または高校中退や高校卒業後に就労自立を目指す児童等で、対象年齢は義務教育終了後の15歳から20歳未満です。

「きょうわ」がオープンすることにより、乳児院↓児童養護施設↓自立援助ホームと0才から20才までの子どもたちのケアができる環境が整うこととなります。経費については、措置費として国から支給されますが、それだけでは十分ではありません。

4、財政的基盤の確立を

自立援助ホーム「きょうわ」の施設整備については、公的な補助金は全くありませんでした。幸いに多くの皆様の応援により借用したアパートの改築補修、家具類等を整えることができました。今後とも「きょうわ」には、公的な資金では不足する見通しです。

子どもたちには、多くの人々の温かい支えと多くのお金が必要です。一人でも多くの皆様方のご支援とご協力をお願い致します。

(1) 自立援助ホーム運営の支援

(2) 施設整備借入金返済の支援

(3) 子どもたちが自立するための支援
(各種資格、免許の取得、大学進学のための教育資金等)

ドクターズバンド セタコンサート

子どもたちと一緒に演奏できて、長年やってきた中で一番良かったよ。(ドクター談)



7月7日にセタ会としてドクターズバンドの演奏会を行いました。嘱託医でもあるドクター3名と共に子どもたちと職員がゆうりんバンドを結成して演奏に参加しました。練習では「音が高くて吹けない」「失敗しちゃうよ」等ネガティブな発言も多かった子どもたちですが、本番では楽しんで吹くことができました。また、恥ずかしがらずにみんなの前に出る姿はとても頼もしく感じました。

演奏を聴いている子どもたちも歌を口ずさんだり、手拍子をしたりと会場一体となった演奏会になりました。ドクターの方々は、「長年やってきた中で一番良かったよ。子どもたちと一緒に演奏できて楽しかった」と喜んで下さいました。そして、なんとドクターからトラン



ペットを寄贈していただきました。本当にありがとうございます。

さて、次回のバンドの演奏会はクリスマスです。ドクターの先生方は、「次はもっと早くから練習しましょう。メドレーをやってみようか。」と気合十分な様子です。ゆうりんバンドも負けずに頑張りたいと思います。クリスマスも楽しい演奏会になる予感がします。



トランペットありがとうございました



演奏の前には、必ず健診をしていただきます。



演奏後には、ドクターさんをお交えて食事会をしました。

ほだか 夏の海

カニさんカニさん
また遊びに来てもいいかなあ？

ほだかのみんなで出かけた初めての海は、あいにくのお天気だったけれど、カニさんにも出会えたり、おきなお風呂にも入れたし、ごちそうをおなかいっぱい食べられたし、みんな大満足だったよ。

この夏ほだかの皆で美浜の海へ出かけました。あいにくの天気でしたが、雨が少し止んだところを宿から急いで海へ向かいました。初めて海を目にする子もおおり、最初は恐るおそるでしたが、慣れてくると楽しそうに手で水をパシャパシャしたり、砂遊びをしたり、カニや貝を見ついたり、それぞれが思い思いに「海」を満喫しました。

しっかりと海を楽しんだ後は、宿の温泉と豪華な食事を堪能しました。初めての大きなお風呂は、とっても気持ち良かったようで、お風呂から上がろうとすると出たくないと言って泣き出す子もいるほどでした。

昼食のお子さまランチは、ボリュームたっぷりです。とても食べきれないだろうと思いきや、すごい食欲で皆食べる食べ。いつもとは明らかに違う皆の食べっぷりにはびっくりしましたね。

最後は、スイカ割り。当然なかなか割れずにいましたが、最後にほだか最年長の男の子が皆の期待に応えて見事割ってくれました。みんなから歓声と拍手が起こると少し照れていましたが、満足気に一番大きいスイカを食べていました。今回はあいにくの雨でした



が、海や温泉など初めてづくしで、子ども達にとってとてもいい刺激になったように思います。

ふれあいセンターおだか ちびっこの集い



写真右上：誕生日会の様子です。「1歳の誕生日おめでとう」

左上：リフレッシュママ講座。託児を行うので安心して参加していただけます。

左中：七夕会にて。天の川にママとお星さまをつけています。

左下：暑い夏は、やっぱり流しそうめんに限りますね。



ふれあいセンターおだかの玄関前には、5月末に子どもたちと植えた朝顔、ひまわり、ポーチュラカが、きれいに咲き、ちびっこの集いに来る子どもたちを迎えてくれています。同じ時期に植えたミニトマトもやつと色づき始めました。ランチの時には子どもたちが収穫した真っ赤なトマトが食卓にのっています。

「おいしい」「あまい」と、これまで食べられなかつた子ども、自分で獲ったトマトは格別のように、『パクリ!』、お母さんをビックリさせています。

4月は、これまで一緒に過ごしていた友だちが、保育園や幼稚園に行ったため、少し寂しい思いをしましたが、最近では、幼児さんや赤ちゃんが大勢来てくれるようになり、賑やか

になりました。

ちびっこの集いでは、年齢に合った絵本の読み聞かせや、わらべ歌遊びを通して、お母さんと子どもが、心地良く過ごしたり、友だち作り、子育ての情報交換をする場にもなっています。

赤ちゃんのクラスの日には、ベッドや畳の上に赤ちゃんが横に並んで寝ています。

ふと気がつくと、3・4か月の赤ちゃん2人が、手を触れ合い顔を見合って「アブ・アブ・」と、何やらお話し中。とてもかわい風風景にみんなでニッコリしました。

乳児院「ほだか」の子どもたちも遊びに来て、誕生会、運動会、七夕祭りなども地域の子どもたちと一緒に参加します。

7月の七夕まつり会には、大

勢の子どもたちが参加しました。裏の竹林で育った笹竹に、みんなで笹飾りや、短冊をお願い事も書いてつるしました。「離乳食が、たくさん食べられますように。」「あんよができるようにになりますように。」「幼稚園に入れますように。」など等、ママが子どもの成長を願った、色とりどりの短冊が風に揺れていました。

7月中旬よりプール遊びが始まりました。赤ちゃんは、プールの中で、おもちゃの魚やあひると遊んだり、少し大きい子は、大きいプールに入り、ワニ泳ぎをしたり飛び込んだり、水しぶきを受けてはしゃぐ子どもたちの元気な声が聞こえています。

コミュニティカフェ 光 オープンしました！

心地よいテラス、自慢のコーヒーの香り：
光いっぱい溢れる空間で皆様をお待ちしています。



営業時間 月・木曜日
午後1時半～4時半

みんなの笑顔が集まる場所・・・

また、皆様に好評いただいているボラン
ティアの丸ちゃん特製クッキーや幻のク
リームブリュレなどもご用意しておりま
す。おしゃべり好きなスタッフ2名が皆様
のお越しを心よりお待ちしております。ど
なた様もお気軽にお立ち寄りくださいま
せ。

二十周年ぶりと言いつつ、連戦連勝の将棋
大好きおじいちゃん、ウォーキングの終盤
に給水所として立ち寄るレディース、赤
ちゃんからよちよち歩きのチビッコ連れの
ママたち、小学生の登下校の安全を見守っ
て下さっている方々が仕事を終えて一服
に：等、様々な地域の方にお越しいただい
ています。

当施設、2階ホール（ふれあいセンター
おודか）にてコミュニティカフェ「光」
IIたまり場がオープンになりました。



自立援助ホーム きょうわ 開所します

9月より自立援助ホーム「きょうわ」が大阪府市共和町に開所の予定と
なっています。きょうわは、様々な事情により家庭で生活することのできな
い15歳から20歳までの子どもたちを受け入れ、自立までの支援をするた
めの小規模ホームです。開所にあ
たって、既存のアパートを改修し6名
の子どもたちが暮らせる環境を整え
ました。

家庭のぬくもりを感じながら生活力
を身に付け、早期の自立ができるよ
うに、ゆうりん・ほだかの各専門職と
連携しながらきめ細やかな支援を
行っています。



～お知らせ～

ふれあいフェスティバル2012
平成24年11月11日(日) 開催予定

フェスティバルをお手伝いしていただけるボラン
ティアを募集しています。

平成23年度決算会計報告

勘定科目		法人本部	ゆうりん	ほだか	合計	
事業活動収支の部	収入	利用料収入	408,148	0	0	408,148
		措置費収入	0	155,086,271	123,525,462	278,611,733
		運営費収入	0	18,434,520	0	18,434,520
		経常経費補助金収入	0	2,719,410	2,599,600	5,319,010
		寄附金収入	0	598,500	114,500	713,000
		雑収入	0	3,848,335	4,680,779	8,529,114
		借入金償還補助金収入	0	8,542,800	2,368,440	10,911,240
		引当金戻入収入	0	418,500	111,600	530,100
		国庫補助金特別積立金取崩額	0	5,241,354	958,758	6,200,112
	事業活動収入計		408,148	194,889,690	134,359,139	329,656,977
支出	人件費支出	360,000	120,418,827	92,539,632	213,318,459	
	事務費支出	621,950	9,625,233	9,396,118	19,643,301	
	事業費支出	263,302	32,213,397	9,766,866	42,243,565	
	減価償却費	0	10,971,782	2,943,508	13,915,290	
事業活動支出計		1,245,252	173,229,239	114,646,124	289,120,615	
事業活動外収支の部	収入	借入利息補助収入	0	0	0	0
		受取利息配当金収入	8,246	3,548	12,288	24,082
		会計単位間繰入収入	0	0	0	0
		経理区分間繰入収入	15,836	0	0	15,836
	事業活動外収入計		24,082	3,548	12,288	39,918
	支出	借入金利息支出	332,133	1,564,721	687,636	2,584,490
		経理区分間繰入金支出	0	3,548	12,288	15,836
事業活動外支出計		332,133	1,568,269	699,924	2,600,326	
経常収支差額		▲ 1,145,155	20,095,730	19,025,379	37,975,954	
特別収支の部	収入	施設整備等補助金収入	0	0	0	0
		施設整備等寄付金収入	8,644,500	0	0	8,644,500
		固定資産売却益	0	0	0	0
	特別収入計		8,644,500	0	0	8,644,500
	支出	基本金繰入額	0	0	0	0
		固定資産売却損・処分損	0	0	0	0
国庫補助金等特別積立金積立額		0	2,000,000	1,990,000	3,990,000	
特別支出計		0	2,000,000	1,990,000	3,990,000	
繰越活動収支差額	前期繰越活動収支差額		▲ 17,166,899	▲ 67,867,969	52,255,672	▲ 32,779,196
	当期末繰越活動収支差額		▲ 9,667,554	▲ 49,772,239	69,291,051	9,851,258
	その他の積立金取崩額 (+)		0	0	0	0
	その他の積立金積立額 (-)		▲ 18,394,521	▲ 30,000,000	0	▲ 48,394,521
	次期繰越活動収支差額		8,726,967	▲ 19,772,239	69,291,051	58,245,779

平成23年度 貸借対照表

資産の部	
勘定科目	当年度末
流動資産	119,946,665
基本財産	585,408,607
その他の固定資産	86,648,371
資産の部合計	792,003,643
負債の部	
流動負債	30,381,021
固定負債	205,056,030
負債の部合計	235,437,051
純資産の部	
基本金	197,936,315
国庫補助金等特別積立金	246,791,841
措置施設繰越積立金	30,000,000
施設整備積立金	23,592,657
次期繰越活動差額	58,245,779
純資産の部合計	556,566,592

事業報告

施設整備から二年目の年となりましたが、人材を揃えざる、専門職の機能化という課題に取り組み、概ねの職員数は揃いました。ほだかについては、年度途中から定数15名を満たすことができましたが、年平均の入所率が基準に満たず、24年度暫定的定数となり職員一名減という事態を招きました。

施設整備の課題として残されていた、屋外時計、園庭のベンチ、ほだか前の庇(ひさし)、ウッドデッキ、小舎及び事務所のオーニング設置などの工事を終えることができました。

定期的な研修会や記念講演会の開催等、社会的養護の場の事業方向についての明確化をはかり、子どもの発達、自立支援、その家族支援という方向を社会的に明らかにする取り組みを行い、一定の成果をあげました。

法人の運営や子どもたちの処遇にかかわる苦情が何件か寄せられました。苦情処理委員で対応するなど適正に処理し、理解を求めました。